

令和5年度

第1回匝瑳市介護保険運営協議会

第1回匝瑳市地域包括支援センター運営協議会

議事録

| | |
|------------------------|--|
| 日時 | 令和5年7月28日（金） 13:30～15:10 |
| 場所 | 市役所議会棟第2委員会室 |
| 出席委員 (50音順・ 敬称略) | 江波戸美代、大関典夫、川名綾、熊切茂、五木田善孝、小関敬人、椎名房子、澁谷晴夫、鈴木幸一、塚本繁雄、英香代子、平山新治、福島俊之 |
| 欠席委員 (50音順・ 敬称略) | 佐々木寛子、平野茂、守一浩 |
| 事務局 | 高齢者支援課 鈴木課長、倉地副主幹、向後主査、椎名主査 西部地域包括支援センター 佐々木保健師、浪川社会福祉士 株式会社名豊 谷貝業務課長補佐 |
| 次第 | 1 開 会 2 挨 拶 3 議 事 (1) 第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について (2) 令和4年度匝瑳市地域包括支援センター事業実績報告及び令和4年度匝瑳市西部地域包括支援センター事業実績報告について 4 閉 会 |

| | |
|----|--|
| 資料 | <p>【資料 1】 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査／在宅介護実態調査／介護サービス提供事業者調査 調査結果報告書（別添冊子）</p> <p>【資料 2】 第9期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定スケジュール</p> <p>【資料 3】 第9期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の体系・骨子の検討</p> <p>【資料 4-1】 令和4年度匝瑳市地域包括支援センター事業実績報告</p> <p>【資料 4-2】 令和4年度匝瑳市西部地域包括支援センター事業実績報告</p> |
|----|--|

1 開会

事務局が開会宣言と変更した委員の紹介を行った。

委員が自己紹介を行った。

事務局が資料の確認を行った。

2 あいさつ

平山会長が挨拶を行った。

事務局が委員の出席状況を報告した（会議の成立報告）。

鈴木課長が事務局の職員、業務委託先の紹介を行った。

3 議事

（1）第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について

ア 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果について

事務局が資料の説明を行った。

<質疑応答等>

委員A：集計を行った対象は、65歳以上のすべての人か。

事務局：65歳以上の方で要介護1から5の認定を受けている人を除いた2,000名をランダムに抽出した。その中に要支援の方は含まれている。

委員A：年齢別で集計し直せば、どの病気がいつの年齢から発症しやすいかを細かく気をつけることができると思う。年齢的にも病気の割合が違うと思う。ここに記載されていなくても、何かあった時に聞くことができたらいいと思う。

事務局：個別に質問していただければ答えることはできるが、すべての項目となるとすぐに答えるのは難しい。

委員A：書き込むのは大変かもしれないが、細かいことは後で分かればよいと思うため、まとめておくとよいと思う。

委員B：匝瑳市の線路の下の部分と上の部分では地形的におかれている環境が違う。地域的な運動力の差の調べはしているか。

事務局：資料90ページに地区別で運動器の低下のリスクがある方の割合について書かれており、地域差や項目により地域性を見ることができる。

イ 在宅介護実態調査結果について

事務局が資料の説明を行った。

(質疑応答はなし)

ウ 介護サービス提供事業者調査結果について

事務局が説明を行った。

<質疑応答等>

委員C：十分な連携が取れている部分が少ない。横の連携はいかがか。

事務局：医療と介護の連携については力を入れてやってきているが、事業者全体との横の連携はまだ十分とは言えない。この結果を踏まえて今後の対応を考えていきたいと考えている。

委員C：包括支援センターも委託になっているため、横の連絡を取り合わなければならない。介護予防支援も西部包括から地域の居宅介護支援事業所に委託しているから十分な連携が必要になっている。そこを上手にやらなければならない。これから団塊の世代が介護を受けなければならず、介護者ももっと増えていく。いろいろなデータを見ると、子どもの介護、または子どもの妻の介護が多く、介護負担が大きい。自助、共助、公助とあるが、現実的な問題として隣近所も高齢者で当てにならない時代になってくるため、行政の対応が大切である。

委員A：介護者として外国人の方については考えているか。

委員長：認定者の中に外国籍の方がいるか。

事務局：認定者の中には外国籍の方はいるが、調査が無記名であるため細かい把握は難しい。

委員A：そうではなく、今質問したのは、介護者の話である。

事務局：事業所の中に外国籍の方はいる。事業所の方針も様々なため、一概には言えないが、外国人の方も選択肢のひとつとして考えていかなければならないと意識している。

委員B：日本は円安になっているため、収入が減っていて、外国から日本に来る人が少なくなっているということを耳にしたことがある。介護者だけでなく、すべての職業においていえることであるが、特に、農家などは外国の力を借りないとできない。一度一つの職業に就いたら異動ができないため、異動を可能にするために、国内でも法律改正を考えているという話も耳にしたことがある。実態としては、外国から見て日本の魅力がなくなり、日本の優秀な人材も外国に引っ張られて日本を去ってしまっている。よって、フィリピンなどからの応募が少ないようである。

事務局：介護人材の確保は国や県でも重要な施策になっている。今後ますます人材が不足してしまうため、国の基本指針でも乗ってくると思う。市としてもそういう対策については力を入れたいと考える。

委員C：介護報酬を国が出せば済む話だ。

委員長：他になければ1点確認をしたい。1ページについて、サービス提供事業者から4通返ってきていない。その理由があれば教えていただきたい。また、もし今後、今後の方向性を決める調査にご協力いただけない事業所があった場合、その事業所への取扱いについて教えていただきたい。

事務局：理由については承っていない。任意の聴取であるので、回答していただいていない方については、これからの検討とさせていただきます。

エ 今後の予定について

- ・第9期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定スケジュール（案）
- ・第9期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画【令和6年度～令和8年度】体系・骨子の検討
事務局が資料の説明を行った。

<質疑応答等>

委員C：これは、事業者にすべて丸投げなのか。

事務局：作成については、事業者と連携しながら進めている。

委員長：他になければ1点確認したい。スケジュールを見ると、第8期計画の推進状況の評価が6月末に終結しているように見える。資料の中に評価内容が見当たらなかった。第9期を作るために、第8期の評価を基にしたと思うが、第8期の評価がどこまで進んでいてどういう進捗状況になっているかを教えていただきたい。

事務局：令和3年度の評価までが終わっており、資料には令和3年度の評価が完了したと書いてあるが、令和4年度の評価についても進めている。

(2) 令和4年度匝瑳市地域包括支援センター事業実績報告及び令和4年度匝瑳市西部地域包括支援センター事業実績報告について

事務局が資料の説明を行った。

<質疑応答等>

委員D：いきいき百歳体操を結構長い間やってきているが、事業として効果が何かあったかわかっているか。

事務局：いきいき百歳体操は平成28年から開始していて、現在755人いるが、体操を開始した時点での体力測定を実施し、3か月後に再度行い、数値が向上した方ごとに評価をしている。リハビリ専門職の方にも一緒に参加していただき、細かく説明していただいている。今後は、例えば体操をやっていたら介護申請をしている人の割合が減ったなどとも結び付けて周知できるようにしていきたいと考えている。

委員D：全体的にどのような効果があったのか、介護保険の申請にどう関わってくるのかが分かってくると、市民の普及啓発についても自分事になるのではと思うところが多々あるため、みんなにわかるように周知いただけるとありがたい。

4 その他

事務局：事務局からの連絡事項は特にない。

5 閉会

事務局が閉会を宣言した。